

小金井市地域情報化推進委員会 第2回 会議記録カード		平成15年12月3日(水) 9時57分～ 12時15分		場 所	601会議室
出 欠	※■が出席、□は欠席				
	<p>■廣瀬委員長 ■和田委員長職務代理 ■伊藤委員 ■田口委員 ■嶋田委員</p> <p>■津田委員 ■岩下委員 ■榎平委員 ■梶河委員 ■小室委員</p> <p>事務局 { □企画財政部長 ■情報システム担当課長 ■行政管理課主査</p> <p> ■情報システム係主事 ■情報システム係主事</p>				
議 題	1 小金井市地域情報化推進委員会(第1回)会議記録カードの承認について				
	2 (仮称) 小金井市前期IT実施計画(案)について				
	3 その他				
傍聴の可否	可	傍聴者の数	11名	備考	
(議事進行: 廣瀬委員長)					
1 小金井市地域情報化推進委員会(第1回)会議記録カードの承認について					
○特に訂正等がなければ承認することとしたい。					
[意見・質疑応答など]					
○文中の「榎平」を「榎平」に訂正願いたい。(榎平委員)					
-大変失礼した。訂正することにした。					
-本件については、承認され、以上で終了-					
2 (仮称) 小金井市前期IT実施計画(案)について					
(本件については、事務局が資料に基づき説明を行った。)					
○実施計画は、事業予算の必要な項目についてのみ取り上げるのが通例である。					
○しかし、行政のみではなく市民、企業・大学等との協働を掲げる戦略構想・基本計画の特徴から、必ずしも事業予算を必要としない項目が計画上多数存在する。					
○その部分については「実施計画案説明資料」を作成しているので、あわせて参照願いたい。					
-以下、説明内容省略-					
[意見・質疑応答など]					

○今回は、従来型の実施計画にこだわることはないと思うので、まずどのような作り方の計画にするかを考えていきたい。(委員長)
○予算を伴わないものも含め、取り組むものは全て書き込み、どこが責任を持つのかを明確にするのがよいのではないかと思う。(委員長)
○重点項目を定め、結果についての評価を取り入れるべき。アンケートなど評価方法と測定方法を決め、その部分を明文化しておくのがよい。(津田委員)
○横断的な施策については、責任体制を明確化して、実行を担保することが重要である。(委員長)
○全体的な予算調整を行い、計画化する必要がある。(嶋田委員)
○小金井市の地域情報化の大きな柱はウェブコミュニティで、必ずしも行政のみが財政措置を行って実現できるものではない。定量的な評価だけでなく、定性的な評価も重要である。(岩下委員)
○評価についてはその仕組みを書き込み、何を指すかを明記すればよいのではないか。フォーマットについては、現在策定中の行政評価システムに委任するという方法がよいのではないか。(委員長)
○ITを活用して何をするのか、目的を明確化してほしい。(小室委員)
○事務局案はかなりブレークダウンしてあると思うが、縦割りの予算編成の中、この計画は全庁横断的に統一して行うのだということを、まず書き込んでほしい。計画はボトムアップでもよいが、推進はピラミッド体制の中で責任をもって実行しなければいけないと思う。推進体制を明確にしておきたい。(楨平委員)
○ITに関する市の推進体制の組織図があれば提出してもらいたい。(嶋田委員)
○協議会は市と市民や企業・大学などで設置するという案だろうが、いくつかは触れられていない。(委員長)
○協議会に依頼して評価システムを作成するという方法もある。(和田委員)
○市民と市の推進体制の結びつきがよく見えない。何を目的とした協議会なのか、目的に対して市民や関連団体が果たすべき役割は何なのか。(嶋田委員)
○市民や団体については、どこにどのような資源があって活用できるのかがわからない。結びついていない。協議会に委ねる部分もあると思うし、逆に人が集まって今後芽を出すような活動もあると思う。(梶河委員)

○評価については、数値だけのシステムにはしないようにしたい。きちぎちにするとかえって上手くいかない。重点施策について定性的に住民アンケートをとって「喜んだかどうか」を評価していくとよいと思う。ホームページでのアンケートだけではなく、広く行ってほしい。(津田委員)
○評価は必要だと思う。本論である計画説明の章の後の章に体制図とともに記述するのはどうか。本計画を1年間実施してどうだったかを評価する旨明記し、次につなげていくような書き方がよいと思う。(田口委員)
○評価のための委員会や体制の検討を、協議会に委ねるのも一つの方法だ。(津田委員)
○推進体制についてだが、実施計画項目ごとに担当者と責任者を定めるべきだと思う。評価の責任者も必要である。(津田委員)
○そのような意味で、計画の作り方の参考になるのが、岐阜県多治見市の基本計画である。1つ1つの施策に目標・展望を書いている。このような作り方で計画を提示してもらえばわかりやすいと思う。(委員長)
○市内で市民が主体となって活動している団体は把握しているか。(梶河委員)
ー市と連携している団体は、全部とは言えないが各主管課である程度はわかると思う。ただ、あえて市と協働の立場をとらない団体もあるようだ。(事務局)
○今後の企画を含め、市民やボランティアと市の組織との関係がどうなるのか、体制図をMLで送ってもらえないか。市民との協働推進体制を、優先順位を考えて検討するために必要だ。(嶋田委員)
○3つの協議会だが、どこが主管するのか、今後どういう人たちとどのような体制でやっていくのかを次回までに提示してもらいたい。(委員長)
○アクセシビリティも絶えず考える必要がある。資料では小金井市の70歳以上の人口が多いことがわかる。ITを使えない人のことも考えるべき。(岩下委員)
○市民参加では、どれぐらい参加したかが市民の満足度に大きくかかわってくる。(梶河委員)
○ホームページのコンテンツ整備だが、携帯対応をするとアクセス数が伸びる。(津田委員)
○携帯端末から市のホームページへアクセスした場合は、携帯用のサイトへ自動的

に振り分ける機能を付け加えたらどうか。技術的には複雑でないので、早めの対応も可能だと思う。(小室委員・委員長)
○コンテンツの充実は、市民が気楽に情報掲載できるか否かにかかっている。自主制作ということならば、簡単に作れるソフトの導入も必要。(田口委員)
○「充実」といっても内容がよくわからない。目標レベルの設定が必要。(委員長)
○ポイントは運営委員会をどう作るかである。(田口委員)
○人選、体制、設立形式などの検討が必要である。(委員長)
○ITリテラシーの向上策が出ているが、IT側でレベルを下げることを検討するのも重要である。(津田委員)
○市長が率先してITを使う姿勢を示すことが重要である。一陽来復をメールマガジンで希望者に配信するなどして、武蔵野市のように市民と行政のコミュニケーションを図るのはどうか。(梶河委員)
○市長がITを率先利用すべきという意見は同感である。(委員長)
○セキュリティポリシーについてだが、方針だけでなく細かい運用ルールを定める必要がある。この部分を記述してほしい。(津田委員)
○行政には制約も多いので、コミュニティポータルをNPOが運営することに賛成する。運営主体が考えることかもしれないが、ガイドラインを定める必要があると思う。また、産業育成等の観点からは、GISの活用も必要。(岩下委員)
○市が基盤になる白地図を提供して、市民がレイヤーで書き込むようなシステムが考えられる。(委員長)
○市民のホームページへのリンクも貼ってほしい。(槇平委員)
○運営主体は、若い世代、学生への呼びかけも必要。(小室委員)
○市役所と市民で責任を分担して、企業などともリンクできると地域ポータルとしての使い勝手はよくなる。(岩下委員)
○ホームページに災害時の安否確認用掲示板の設置などを考えるのはどうか。 (田口委員)
○災害時のリスクを考えて、データの共同利用型アウトソーシングということも考慮する必要がある。コストダウンにもなる。(津田委員)
○行政評価システムと今回作る計画との関係を明らかにしつつ、別にこの計画を評

価値する方法を考える必要がある。(委員長)

[傍聴者からの意見]

○地域ケーブルテレビ会社から傍聴に来た。基本計画の実現に期待するとともに、
今後も会社として行政に協力をしていきたい。

－本件については、以上で終了－

3 その他

(本件については、事務局が説明を行った。)

○日程について

【第3回】平成16年1月16日(金)午後3時～ 萌え木ホール

【第4回】平成16年2月14日(土)午後3時～ 801会議室

いずれも2時間程度で会議を開催したい。

－本件については、承認され、以上で終了－

－以上で会議終了－